

居てはいけないもの

1. 移入種・外来種

冬季の打吹山は落葉する樹木があり、見通しが少し良くなります。そのため、遊歩道から離れていても気づくものが出てきます。

鳥では、中国南部からヒマラヤ山麓に生息する種で、飼育用に輸入されたものが逸出し、繁殖したソウシチョウの群れが見られます。打吹山では繁殖していませんが、大山など山地では同じような生活をするウグイスなどに影響を与えています。

昆虫は、1940年代に侵入した、クリの芽の伸長を止めてしまうクリタマバチが定着してしまいました。影響を受けていない木はありません。柑橘類の大害虫であるイセリアカイガラムシは、オーストラリアから導入された天敵によ



イセリアカイガラムシ♀



ヒロヘリアオイラガの繭

て制圧されたのですが、いろいろな木に寄生するため、打吹山で生き残っています。冬にメスの死骸をよく見つけます。

温暖化に伴い、広葉樹の葉を食害するヒロヘリアオイラガやヨコヅナサシガメ、キマダラカメムシが侵入してきました。ヒロヘリアオイラガは公園の植栽樹から打吹山の自然林に侵入しそうになっていましたが、冬の極端な低温で減少傾向にあるようにも見えます。越冬している繭(まゆ)を見つけたら潰して殺しましょう。

2. 植栽種

打吹山の遊歩道はさほど古くはありません。昭和30年代まではまっすぐ頂上を目指す小道ばかりでしたが、一周できるルートが作られ、さらに1984年にできた新しいコースが現在の遊歩道です。

この遊歩道新設にともない、植栽された樹種があります。自然林である打吹山に合ったものをということで、自然植生であるスダジイやタブノキ、ヒメユズリハが植えられました。しかし、その他に業者の圃場にあったからと思われる、打吹山に自生しない樹種も植えられました。暖地性のオガタマノキやヒメシャラ、ヤマモモです。また、ブナ帯が分布の中心であるナツツバキやシナノキもそうです。



オガタマノキの落下花卉



ヒメシャラの赤い幹肌

植栽された樹木は遊歩道(新・旧)沿いで、まだ支柱が残っているものもあるので判別できそうです。備前丸近くではトサミズキのような花木も植えられていましたが、被圧されてなくなったようです。市民団体から寄贈されたロードデンドロン(西洋シャクナゲ)なども打吹山に適さないものです。市街地に近いこともあり、庭の植樹の種子が鳥によって運ばれ、発芽した種もたくさんあります。シュロも自生地は九州南部です。意図しないで自然を変えている事にも関心を持ちましょう。